

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177600319		
法人名	メディカルケアサービス北海道株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム石狩花川 1階いちご		
所在地	石狩市花川404-12		
自己評価作成日	平成30年2月8日	評価結果市町村受理日	平成30年3月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail.2017.022_kani=true&JigyosyoCd=0177600319-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年2月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様のできることを 最大限行って頂けるよう支援し、自由に過ごせるようにしています。自由に過ごせるようにまた、不安をすぐ聞けるよう1日のプログラムは立てておりません。入居者様には時間に関係なくスタッフに不安を行って頂けるようその日の予定を決めずすぐに対応できる様努めています。また外出にもこだわりがあり、全員やグループでの外出はもちろん個別での外出に力を入れております。入居者様の行きたい場所が同じ場所でも過ごし方は人それぞれ違う事が多く個別にレクに行く事で、とても満足した外出を支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「愛の家グループホーム 石狩花川」は、バス停から近い自然豊かな住宅地に建っている2ユニットの事業所である。利用者は景色を眺めながら周囲を散歩したり、畑で採れた野菜類を活用してバーベキューや、さつま芋を焼いて楽しんでる。開設13年が経過する中で管理者は町内会との関係や行政の取り組みに協力し、地域の人々と触れ合う環境づくりを熱心に進めている。利用者は町内会の夏祭りや敬老会に参加したり、町内の他グループホームとの合同行事でゲームや催しを住民と共に楽しんでいる。個別の外出時にも地域住民と自然に触れ合っている。認知症の人と家族、支援者たちでタスキをつなぐリレーに利用者も一緒に参加している。事業所内では本部のバックアップのもとに、各マニュアルや書類が整備されており、職員はマニュアルを活用して日々学びながら振り返りを行っている。提携医療機関の医師や看護師に常に相談できる体制の中で看取りケアを行い、職員は質の高いケアを提供している。家族の来訪時には利用者の暮らしについて意向を聞きながら介護計画を作成し、その人らしい快適な暮らしを大切に個別ケアを行っている。個別レクで、プロ野球の観戦、カラオケ、藻岩山、定山渓や小樽での温泉など、入居前の習慣や馴染みの場所の外出支援を継続し、可能な限り意向に沿って対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階いちご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼にて理念の唱和し、理念については入社時に時間を作り意義を確認し実践に向けて取り組んでいる。	法人の共通運営理念3番目に、地域の人々とのふれあいを大切にするという文言があり、地域密着型サービスの意義を理解して実践につなげている。町内会行事への参加や馴染みの関係を大切に機会を捉えて継続的に支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議で意見交換を行い、同じ町内会にあるGHと協力し町内の方と交流を持てるよう行事行ったり、ラン伴に参加する等交流している。	町内会の夏祭りに参加したり、敬老会に招かれて参加者と一緒に食事やカラオケを楽しんでいる。職員の子供が遊びに来ているが、今後は近くの小学校や幼稚園にも働きかけて、交流の場を検討したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトの活動を、近隣のグループホームの職員や、市の担当者、その他地域包括の方々と一緒にメンバーとなって、年数回ほど、認知症サポーター養成講座を地域住民対象に開催し、講師役となったり、「いしかり医療と福祉のまちづくりひろば」の一員としてフェスタの開催に協力している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回会議にて取り組み状況を報告し、意見や質問を聞き、意見に関してはユニット会議等で検討し活かしている。	6回のうち、2回は町内の他グループホームと合同で会議を行い、情報交換など有意義な機会になっている。会議では事業所の取り組み内容を中心に意見を交わしている。今年度は家族も参加しているが、参加率としては少ない状況である。	会議案内に毎回メインとなるテーマを記載し、参加が難しい家族の意見も得て会議に活かし、意見や情報交換の場として家族の関心が高まるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	キャラバンメイト、いしかり医療と福祉のまちづくりひろば、石狩市在宅医療・介護連携推進ワーキングチームのメンバーとして市町村と日頃から連絡をとり、協力している。	書類提出で分からない時は電話などで市の担当者に確認している。行政の取り組みに積極的に協力し、高校生、市民、市職員を対象にした認知症サポーター養成講座の講師を受けて、行政と連携して行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については定期的に勉強会を開催し、理解を深めるよう努力している。また、日中に関しては玄関を開錠し対応している2月に一度チェック表を用いて防止に充てている	法人共通のマニュアルを活用して内部研修を行い、その中で身体拘束の禁止行為も確認している。グレーゾーンな部分がある事例を取り上げて拘束をしない方法を話し合っている。職員は法人共通のチェック表で不適切なケアや身体拘束について確認し、普段のケアを振り返っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的にホーム内研修を開催し、身体拘束と虐待について学ぶ機会を持ち、防止に努めている。2月に一度チェック表を用いて防止に充てている。		

愛の家グループホーム石狩花川

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階いちご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内研修に学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に管理者が担当し、入居前には見学等を十分にしてもらい、何に不安を持っているのか等は十分に聞き理解、納得の上での入居をして頂くよう心掛けている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族アンケートを年1回実施し、要望が聞けるような体制をつくっており、アンケートの結果に基づき取り組みを行っている。	家族の来訪時にケアについて話し合い、意向を介護計画書1表に載せて反映させている。今後は職員の気づきも含めて個別に記録し、家族の些細な思いの共有を考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回の職員アンケート、月1回のユニット会議、3か月に1回の個別の面談の時などに意見を出し合い、かつ言いやすい体制作りを心掛けている。	ユニット会議で業務や利用者の状態について意見を交換している。職員アンケートの中で必要な時は会議で対応を話し合うこともある。個人面談では業務上の指導や個人的な事情の相談に乗り、働きやすい環境に配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各表彰制度や、評価制度等を導入し、職員の頑張りが評価できる体制作りをしている。また、有給休暇は使いやすい環境になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修や、各段階に合わせた研修会、その後のフォローアップ等を実施し育てる仕組み作りをしている。ホーム内研修の他、勉強会も検討している。また、研修の機会を持てる様外部研修を誘うが、中々参加人数が増えず、外部研修の機会を職員に与えているとは言い難い。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同町内のグループホームと合同推進会議をしたり、市内のグループホーム職員とキャラバンメイトやいしかり医療と福祉のまちづくりひろばの活動を共に行い、共に情報共有を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階いちご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に直接ホーム管理者と計画作成担当者がお会いしアセスメントをとり、これまでの生活状態を把握するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム見学時や契約時お会いした時に何に困っているのかなどを事前にゆっくりと聞けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者などには柔軟な対応が出来る様にし、必要があれば地域包括支援センターや、他の事業所のサービスにつなげるなどの対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員の立場で一方向的に何かをお伝えするのではなく、その方が何をしたいか等傾聴しその方に必要な事ができる様支援する事で信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様には、月に1回の手書きのお手紙での報告とその都度変わりがあった場合は密に連絡を取り、共に支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	誕生日の日などには、スタッフの付き添いで、以前住んでいた場所を尋ねたり、自宅に帰宅したり、以前のお友達に会いに行ったりなど、出来る限りの対応を心掛けている。	友人の来訪時には居室で寛げるように配慮し、利用者と一緒に散歩する方もいる。個別レクとして意向を聞きながら家族支援のほか、馴染みの行きたい場所に可能な限り同行している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のお茶や食事の時間は職員も一緒に多くの会話をもちょうにしたり、役割活動などを通して利用者同士の関係が円滑になるように働きかけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階いちご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人は亡くなられてしまったが、御家族様は同じ町内と言う事もあり、今でも運営推進会議や避難訓練には参加して頂き、関係性の継続に努めている。そのつながりが7年経過した今でも続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のモニタリングはもちろんです、センター方式を活用し一人ひとりの思い等の意向の把握に努めている。またご家族様にも希望を聞くよう心掛けている。	会話が難しい方には言葉がけで思いを把握し、個別の意向を介護計画書1表に記載して計画につなげている。センター方式のシートを活用し、3か月ごとに変化を追記し情報を蓄積している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前はもちろんのこと、ケアプラン更新時などにも、センター方式のシートに添って本人やご家族へ聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式にて出来る事、出来ない事を把握し、出来る事を伸ばせるようにしていく事に視点をおき、その方の状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族へはケアプラン更新時に思いや意見を聞き反映させるようにしている。また、担当スタッフを中心に職員全員でモニタリング等実施し、カンファレンスで意見を聞けるような参加できない方は意見を担当者に提出するよう体制作りをしている。	カンファレンスに参加できない場合は評価シートの提出で全職員の評価をもとに、3か月ごとに介護計画を作成している。日々の記録は主に支援内容の実施状況を記録しており、今後は出来なかった項目の理由や、いつもと違う利用者の様子を記載する方法を考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や、スタッフ用の連絡ノートを活用し日々の細かな気づきや、意見の情報を共有できるようにしている。また月に1度のユニット会議で全員の入居者様について意見交換している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来ないという事は極力考えず、日々柔軟にニーズに対応できるよう個性を持って取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアを活用し行事の際は様々な催しを鑑賞していただくなど、楽しんでもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、家族の要望に応じ、日常的な受診、往診を受診は、実施している。往診以外の受診は、基本的にはご家族が対応するようし、かかりつけ医師や、専門医へ要望や相談を直接出来るようにしている(ホームのルール)	提携医療機関の訪問診療は、個人ごとの対応で殆どの日に往診がある。専門的な他科受診には職員が同行し、安定した場合は家族が対応することもある。往診、通院を個人記録の別紙に記録し、経過を把握している。	

愛の家グループホーム石狩花川

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階いちご)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回ホームへ訪問看護師が訪問し、随時相談、助言、指導をしている。また、24時間オンコールの体制をとり、迷うような症状の場合は電話にて指示をもらったり、必要であればホームへ来て対応をしている(ホームのルール)			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が発生した場合は、1週間に1回または、少なくとも2週間に1回のペースで入院先へ出向き、状態のアセスメントを実施したり、時期をみてソーシャルワーカーとも相談するなどし早期退院へ向け対応している(ホームのルール)			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、医師、職員が連携をとり、事業所ができることを十分に説明し、職員間で共有している。	利用開始時に重度化対応指針のほかに、「看取り介護にかかる指針」で、対応が可能な内容を具体的に明示し、同意を得ている。終末期には関係者で方針を確認し、入居時の看取り指針を再確認して看取りケアを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応マニュアルに添い対応が出来る様に全スタッフマニュアルに目を通す他、定期的に研修会、勉強会の開催をしている。AEDを設置し全員が説明を受けている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同町内のグループホームと合同で推進会議を開催しその中で、火災、災害発生時に町内との連携について話し合い、ホームの火災通報機に町内会長の連絡先の登録をし万が一の際には自動で連絡が行くような体制をとっている。	消防署立ち会いで、昼夜を想定した避難訓練を実施しているが、今年度は住民の参加が得られていない。次年度には運営推進会議と同日に消防署の立ち会いで夜間を想定した避難訓練を実施したいと考えている。	非常災害時のマニュアルを全職員で確認する中で地震などを想定し、事業所内の危険箇所の確認や各ケア場面での対応について職員間で話し合うことを期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室内の排泄介助や入浴介助等利用者様のプライバシー保護を考え、日常的な基本事項として、当たり前前に全スタッフ実施できている。また定期的な虐待チェックの項目にもなっている。	入社時研修や内部研修で、プライバシーや不適切ケアについて学んでいる。申し送りはイニシャルで行い、個人的なことは居室で話している。家族の同意を得て、本人が好む愛称で呼ぶこともある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様のペース希望に合わせ、生活して頂いているが、少しでもスタッフや他入居者様と関わりが持てるよう働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に1日の日課は決めていなく、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応できるように努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の会議等で、身だしなみについては注意喚起している。また、外出や、行事の際はネイルやお化粧などを女性入居者にはして頂き、おしゃれを楽しんでもらっている。			

愛の家グループホーム石狩花川

自己評価	外部評価	項目	外部評価(事業所全体)		
			自己評価(1階いちご)	実施状況	実施状況
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その方にあった食事形態を取り、楽しみながら自分で食事できるよう支援している。	誕生日は本人の好きな献立にしたり、家族と一緒にバーベキューや流しソーメンなどをして楽しんでいる。全員で春の宴で居酒屋に出かけたり、秋には焼き芋を焼いて季節感を味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は栄養バランス、カロリー等考え当社管理栄養士が全ホーム分一括して立てている。また、1日の水分摂取量を1,500を目標とし食事摂取や水分摂取が進まない方にはゼリーに変更し摂取できるように支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員口腔ケアを実施している。又、必要な方には歯科衛生士による口腔内清掃を実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の残存機能を考慮し、トイレでの排泄に向けて支援を行っている。	全員の排泄を記録して、その人に応じた声かけや誘導を行っている。立位が困難になった場合は、ベッド上でパッドなどを交換している。職員が関わり方を工夫することで意思が伝えられるようになり、トイレでの排泄が可能になった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と相談し、排便困難な方には水分補給を多くする他、腹部マッサージをするなどリズム作りをしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせる努力はしているが、希望者のすべての時に入浴できていない事もある。	午後を中心に、週2～3回の入浴を支援している。一日おきに入浴している方もいる。毎回浴槽のお湯を交換して好みの湯加減にしたり、入浴剤を使用して入浴が楽しめるように工夫している。個別支援で温泉に出かける利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明に気を配り、安眠できる環境づくりをしている他、日中活動を増やすなどし安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の錠数、包数をセット時、服薬時に声出し確認を複数名でしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別でのレクを充実する事で、楽しみの充実、気分転換を図っている。		

愛の家グループホーム石狩花川

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階いちご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1人1人の希望に沿って外出の支援しているが、行きたくない方が外へ出られる支援として工夫が必要と感じる事もある。	普段は近隣を散歩したり、花壇やプランターの花を觀賞している。本人の希望に沿って札幌ドームで野球を觀戦したり、寿司やラーメンを食べに出かけている。藻岩山や小樽、旭川方面に出かけている方もいる。全員で定山溪の足湯に出かけたり、雪まつりを車窓から見学している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る方には、御家族様了承のもと、所持して頂き、使用できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話があった際や、電話をかけたいと希望があった場合にはスムーズにできるように手助けをしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が出るよう、視覚で楽しめるような装飾や、音楽を掛けること多くするようにし、居心地がよく暮せるよう心掛けている。	居間と食堂は大きな窓に面した明るく開放感がある造りで、浴室やトイレは居間から見えない場所に設置されている。季節感のある雑段や利用者と一緒に制作した貼り絵も飾られている。利用者の出入りが把握できるように、鈴を利用した手作り暖簾やドア飾りをさりげなく付けているユニットもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	静かに、落ち着いて過ごせる場所は現在居室しかないため、共用部分でもそういったスペースが出来るよう配置を常に考えている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごせるよう、なるべく今まで使用していた馴染みのものを持ち込んでいただくようにしている。	クローゼットが備え付けられている居室に鏡やダンス、机や椅子を持ち込んで本人が使いやすいように工夫して配置している。室内で趣味のDVDを見ている方もいる。カレンダーや家族の写真を飾り、その人らしい落ち着いた居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センター方式の出来る事、出来ない事シートに添って個々の把握に努め、出来る事を活かせるような場面作りをしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177600319		
法人名	メディカルケアサービス北海道株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム石狩花川 2階とまと		
所在地	石狩市花川404-12		
自己評価作成日	平成30年2月8日	評価結果市町村受理日	平成30年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様のできることを 最大限行って頂けるよう支援し、自由に過ごせるようにしています。自由に過ごせるようにまた、不安をすぐ聞けるよう1日のプログラムは立てておりません。入居者様には時間に関係なくスタッフに不安を行って頂けるようその日の予定を決めずすぐに対応できる様努めています。また外出にもこだわりがあり、全員やグループでの外出はもちろん個別での外出に力を入れております。入居者様の行きたい場所が同じ場所でも過ごし方は人それぞれ違う事が多く個別にレクに行く事で、とても満足した外出を支援しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2017.022_kani=true&JigyosyoCd=0177600319-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年2月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階とまと)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼にて理念の唱和し、理念については入社時に時間を作り意義を確認し実践に向けて取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議で意見交換を行い、同じ町内会にあるGHと協力し町内の方と交流を持てるよう行事行ったり、ラン伴に参加する等交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトの活動を、近隣のグループホームの職員や、市の担当者、その他地域包括の方々と一緒にメンバーとなって、年数回ほど、認知症サポーター養成講座を地域住民対象に開催し、講師役となったり、「いしかり医療と福祉のまちづくりひろば」の一員としてフェスタの開催に協力している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回会議にて取り組み状況を報告し、意見や質問を聞き、意見に関してはユニット会議等で検討し活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	キャラバンメイト、いしかり医療と福祉のまちづくりひろば、石狩市在宅医療・介護連携推進ワーキングチームのメンバーとして市町村と日頃から連絡をとり、協力している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については定期的に勉強会を開催し、理解を深めるよう努力している。また、日中に関しては玄関を開錠し対応している2月に一度チェック表を用いて防止に充てている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的にホーム内研修を開催し、身体拘束と虐待について学ぶ機会を持ち、防止に努めている。2月に一度チェック表を用いて防止に充てている。		

愛の家グループホーム石狩花川

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階とまと)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内研修に学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に管理者が担当し、入居前には見学等を十分にしてもらい、何に不安を持っているのか等は十分に聞き理解、納得の上での入居をして頂くよう心掛けている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族アンケートを年1回実施し、要望が聞けるような体制をつくっており、アンケートの結果に基づき取り組みを行っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回の職員アンケート、月1回のユニット会議、3か月に1回の個別の面談の時などに意見を出し合い、かつ言いやすい体制作りを心掛けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各表彰制度や、評価制度等を導入し、職員の頑張りが評価できる体制作りをしている。また、有給休暇は使いやすい環境になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修や、各段階に合わせた研修会、その後のフォローアップ等を実施し育てる仕組み作りをしている。ホーム内研修の他、勉強会も検討している。また、研修の機会を持てる様外部研修を誘うが、中々参加人数が増えず、外部研修の機会を職員に与えているとは言い難い。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同町内のグループホームと合同推進会議をしたり、市内のグループホーム職員とキャラバンメイトやいしかり医療と福祉のまちづくりひろばの活動を共に行い、共に情報共有を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階とまと)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に直接ホーム管理者と計画作成担当者がお会いしアセスメントをとり、これまでの生活状態を把握するよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム見学時や契約時お会いした時に何に困っているのかなどを事前にゆっくりと聞けるようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者などには柔軟な対応が出来る様にし、必要があれば地域包括支援センターや、他の事業所のサービスにつなげるなどの対応をしている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員の立場で一方的に何かをお伝えするのではなく、その方が何をしたいか等傾聴しその方に必要な事ができる様支援する事で信頼関係を築いている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様には、月に1回の手書きのお手紙での報告とその都度変わりがあった場合は密に連絡を取り、共に支えていく関係を築いている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	誕生日の日などには、スタッフの付き添いで、以前住んでいた場所を尋ねたり、自宅に帰宅したり、以前のお友達に会いに行ったりなど、出来る限りの対応を心掛けている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のお茶や食事の時間は職員も一緒に多くの会話をもちょうにしたり、役割活動などを通して利用者同士の関係が円滑になるように働きかけている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階とまと)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人は亡くなられてしまったが、御家族様は同じ町内と言う事もあり、今でも運営推進会議や避難訓練には参加して頂き、関係性の継続に努めている。そのつながりが7年経過した今でも続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のモニタリングはもちろんです、センター方式を活用し一人ひとりの思い等の意向の把握に努めている。またご家族様にも希望を聞くよう心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前はもちろんのこと、ケアプラン更新時などにも、センター方式のシートに添って本人やご家族へ聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式にて出来る事、出来ない事を把握し、出来る事を伸ばせるようにしていく事に視点をおき、その方の状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族へはケアプラン更新時に思いや意見を聞き反映させるようにしている。また、担当スタッフを中心に職員全員でモニタリング等実施し、カンファレンスで意見を聞けるような参加できない方は意見を担当者に提出するよう体制作りをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や、スタッフ用の連絡ノートを活用し日々の細かな気づきや、意見の情報を共有できるようにしている。また月に1度のユニット会議で全員の入居者様について意見交換している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来ないという事は極力考えず、日々柔軟にニーズに対応できるよう個別性を持って取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアを活用し行事の際は様々な催しを鑑賞していただくなど、楽しんでもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、家族の要望に応じ、日常的な受診、往診を実施している。往診以外の受診は、基本的にはご家族が対応するようにし、かかりつけ医師や、専門医へ要望や相談を直接出来るようにしている(ホームのルール)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階とまと)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回ホームへ訪問看護師が訪問し、随時相談、助言、指導をしている。また、24時間オンコールの体制をとり、迷うような症状の場合は電話にて指示をもらったり、必要であればホームへ来て対応をしている(ホームのルール)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が発生した場合は、1週間に1回または、少なくとも2週間に1回のペースで入院先へ出向き、状態のアセスメントを実施したり、時期をみてソーシャルワーカーとも相談するなどし早期退院へ向け対応している(ホームのルール)		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、医師、職員が連携をとり、事業所ができることを十分に説明し、職員間で共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応マニュアルに添い対応が出来る様に全スタッフマニュアルに目を通す他、定期的に研修会、勉強会の開催をしている。AEDを設置し全員が説明を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同町内のグループホームと合同で推進会議を開催しその中で、火災、災害発生時に町内との連携について話し合い、ホームの火災通報機に町内会長の連絡先の登録をし万が一の際には自動で連絡が行くような体制をとっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室内の排泄介助や入浴介助等利用者様のプライバシー保護を考え、日常的な基本事項として、当たり前前に全スタッフ実施できている。また定期的な虐待チェックの項目にもなっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様のペース希望に合わせ、生活して頂いているが、少しでもスタッフや他入居者様と関わりが持てるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に1日の日課は決めていなく、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の会議等で、身だしなみについては注意喚起している。また、外出や、行事の際はネイルやお化粧などを女性入居者にはして頂き、おしゃれを楽しんでもらっている。		

愛の家グループホーム石狩花川

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階とまと)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その方にあった食事形態を取り、楽しみながら自分で食事できるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は栄養バランス、カロリー等考え当社管理栄養士が全ホーム分一括して立てている。また、1日の水分摂取量を1,500を目標とし食事摂取や水分摂取が進まない方にはゼリーに変更し摂取できるように支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員口腔ケアを実施している。又、必要な方には歯科衛生士による口腔内清掃を実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の残存機能を考慮し、トイレでの排泄に向けて支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と相談し、排便困難な方には水分補給を多くする他、腹部マッサージをするなどリズム作りをしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせる努力はしているが、希望者のすべての時に入浴できていない事もある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明に気を配り、安眠できる環境づくりをしている他、日中活動を増やすなど安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の錠数、包数をセット時、服薬時に声出し確認を複数名でしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別でのレクを充実する事で、楽しみごとの充実、気分転換を図っている。		

愛の家グループホーム石狩花川

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階とまと)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1人1人の希望に沿って外出の支援しているが、行きたくない方が外へ出られる支援として工夫が必要と感じる事もある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る方には、御家族様了承のもと、所持して頂き、使用できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話があった際や、電話をかけたいと希望があった場合にはスムーズにできるように手助けをしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が出るよう、視覚で楽しめるような装飾や、音楽を掛けること多くするようにし、居心地がよく暮せるよう心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	静かに、落ち着いて過ごせる場所は現在居室しかないため、共用部分でもそういったスペースが出来るよう配置を常に考えている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごせるよう、なるべく今まで使用していた馴染みのものを持ち込んでいただくようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センター方式の出来る事、出来ない事シートに添って個々の把握に努め、出来る事を活かせるような場面作りをしている。		

目標達成計画

事業所名 愛の家グループホーム石狩花川

作成日：平成 30年 3月 7日

市町村受理日：平成 30年 3月 7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の参加者以外の方の意見等が反映される機会が少ない。	会議参加が難しい方の意見を反映させた会議が出来る。	会議案内にメインテーマを記載し、参加申込書に意見の記入欄を作成すると共に、面会時にテーマに関する会話をする。	1年
2	35	火災の際の避難訓練やマニュアルは整備されているが、地震や水害、特に各ケア場面での災害を想定した話し合いは出来ていない。	各ケア場面での災害をスタッフ全員が想定できる。	ユニット会議等で定期的に各ケア場面での災害を想定する。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。